

## 令和2年度東京都立足立工業高等学校経営報告

### 令和2年度東京都立足立工業高等学校経営報告

#### 1 今年度の取組と自己評価

##### (1) 教育活動への取組と自己評価

###### ① 学習指導をとおして

- 1) 各教科・科目とも「生徒による授業評価」を基に校内研修を行い、基礎・基本の徹底に努めるとともに、引き続き数学・英語・国語で少人数編成・習熟度別授業を展開で生徒の能力を伸ばす指導を徹底した。
- 2) 課題研究を中心に、生徒が自ら調べ、考え、適切に発表・報告できるよう指導を行い、校内での発表会も機械系に加えて電気系でも実施をし、言語活動の増進を図った。更にアクティブラーニングを取り入れた指導方法の検討をすすめと実践を図った。
- 3) 電気工事士、危険物取扱者検定及び製図検定など補習をさらに充実させた。電気工事士及び危険物取扱者機械製図検定等の各種受検者数と合格者数には新たな種目を挑戦させるなど自発性を促す取組みをさせた。
- 4) 大学生による補習指導等や外部機関を活用したキャリア教育の取組みは、大きな支援につながった。教科会の運営を位置づけ、教科横断的に連携を図った。
- 5) 専門科目では、コロナ禍にあいあって、体験的な実習授業を重視し、段階を追って実施した。
- 6) 学力向上推進に向けた取組みとともに技能スタンダードの実施に向けた具体化では、危険物取扱者（丙種）を学年単位で取得させた。これらを通じて基礎的な学力・技能を身に付ける習慣や目的意識を持たせるように仕向けられた。
- 7) タブレット利用等の授業のICT化に向けた、教科会で検討をすすめ、試行的ながら、着実な導入を図っている。
- 8) 各教科で環境教育に積極的な導入を図った。課題研究の題材など取り上げた成果がみられた。
- 9) 他教科も含めた授業見学を促進し、教員、生徒の意識改革を図った。
- 10) 課題研究を2年、3年と継続的に実施するとともに発表会を実施して結果までまとめる力を養う。
- 11) 各種コンテストへの出場を促し、生徒へ学習意欲の向上を図られた。
- 12) 日本語理解に課題を有する生徒への「取り出し授業」等により支援を継続し、自己の進路実現に結びつけた。

###### ② 進路指導をとおして

- 1) 「進路の手引き」及び「年間指導計画表」に基づき、計画的なキャリア教育を学年との連携により実施した。
- 3) 第2学年全員参加のインターンシップ、1学年は地元企業の見学会は、コロナ官憲防止対策から実施を見送る。

###### ③ 生活指導に関して

- 1) 基本的な生活習慣の中で特に挨拶や遅刻、服装の指導を徹底した。また、年間を通じてコロナ感染防止を対策に努め、マスク着用、手洗い等の指導を実施した。
- 2) 各学年において、遅刻する生徒に対し、指導方法を工夫し、挨拶運動の結果もあり、遅刻は、減少傾向が続いている。
- 3) スクールカウンセラーの活用等により、生活指導と結びついた相談機能の充実が図れた。

- 4) いじめ問題へは日常的に未然防止に取り組み、早期発見・早期対応を組織的に行う。発生した事案では、的確な対応ができた。
- 5) コロナ禍において、セーフティ教室、薬物乱用やSNSのマナー、疑似交通事故安全教室等、資料等を作成し、また、避難訓練では、マイ・タイムラインの活用、ハザードマップ等を使用し、集会ではなく、クラス指導に強化し実施した。を実施し理解を深めた。
- 6) 自転車運転へのルール徹底と雨具の保管場所の確保など安全教育を推進した。

#### ④ 特別活動・部活動

- 1) コロナ禍で体験の機会は減ったが、交通安全の旗振り運動等、地域に根ざした奉仕活動を行うなど、社会貢献や思いやりの心を育む活動を工夫して実施した。
- 2) コロナ禍でオンラインでの指導など取り入れた部活動を奨励し、活性化を図った。また、「部活動重点配布予算」事業を申請して、予算措置の考慮や貴重な大会への出場に役立てられた。
- 3) 清掃活動等を徹底し、施設や設備を大切に扱う指導を徹底した。

#### ⑤ 健康づくり

- 1) コロナ感染防止を対策に努め、マスク着用、手洗い、校内消毒等の指導を促進、徹底を図った。
- 2) 清掃活動等を徹底し、施設や設備を大切に扱う指導を徹底する。
- 3) エネルギーの効率的利用を図り、SDG 's の開発目標に沿った環境保全に対する実習授業等で理解を深められた。
- 4) 学校保健計画に基づき、薬物乱用防止や生活習慣病、精神衛生、安全教室、エイズ等において、コロナ禍であるため、講習会は行わず、ホームルーム等での資料に基づき実施した。

#### ⑥ 募集・広報活動

- 1) 生徒募集・求人対策を重視して取り組んだ。
  - ・ 授業公開は年間とし、足立区以外の地域にもPRを行うとともに、足立区の産業界にも広報活動を行うなど、PR方法を改善した。
  - ・ ホームページ内容の更新を180回以上行い、即時性と内容の充実が大幅に図られた。
- 2) 地域等の連携・交流を推進した。
  - ・ コロナ感染予防の観点から、小中高連携事業計画、区や地域行事への参加等は関係機関と調整し、次年度以降に見送ることとした。

#### ⑦ 学校経営体制

- 1) 学校運営連絡協議会と学校評価委員会はコロナ感染予防の観点から書面開催にて実施した。
- 2) 総合技術科としての教育課程の検討等により、本校の未来像とその実現に向けた検討を組織的に行い、学級減に伴う、5クラス5コース制から4クラス5コース制の在り方を構築した。
- 3) 学校行事や授業などで、ICT機器の活用をすすめ。特に若手教員研修における研究授業で実践を重ねている。また、校内研修を通し、個人情報の扱いを適正に行う。
- 5) 経営企画室の機能の強化を図り、教職員一人一人の参画意識をさらに高める。
- 6) 体罰根絶に向けた取組みを組織的に実施する。

#### ② その他

- 1) 防災キャンプへの参加など、防災教育への取り組みは、コロナ感染予防の観点から、次年度以降以降の実施となった。
- 2) 拠点校実習は、準備を進めていたが、コロナ感染予防の観点から、次年度以降以降の実施となった。
- 3) 言語能力を育むため、図書館利用をすすめ、書評合戦をもとに、教科指導に取り込み、読書を奨励する取組の充実を図った。

#### (3) 重点目標への取組と自己評価

本校の教育目標のもと、生徒の生き方、あり方の指導・支援を徹底した。

## ① 学習指導に関して

各科目の年間指導計画や週案を作成して以下のことに取り組んだ。

- 1) コロナ禍以降の授業再開以降、国語・数学・英語で各学年における習熟度、少人数授業の授業改善に取り組み、充実を図り、基礎学力、学力向上に努めた。

国語：少人数授業展開により、漢字の学習に力を入れた結果、漢字に関する学力が向上した。

評論に関する読解、語彙力に関しての学力は伸び悩んでおり、論理的な考え方が不十分。

数学：習熟度別の指導展開により、基礎的な学力は向上させる。

英語：教室英語によって簡単な定型的な会話をこなせ、興味を示す生徒が多くなった。単語及び発音には課題が残る。

- 2) 学力向上推進に向けた取組みとともに技能スタンダードの実施に向けた具体化では、危険物取扱者（丙種）を学年単位で取得させた。この取組みにより、基礎的な学力・技能を身に付ける習慣や目的意識、学習への自信に繋げることができた。
- 3) 全体での研修会として、実施はしないが、各教科にはICT機器の導入とアクティブラーニングの手法を取り込む実践を求め、全教科の授業でICT機器を利用するなど授業の進め方や授業内容の改善が図られた。
- 4) 「年間授業計画」の生徒に配布し、教える内容、評価方法等十分に説明し、生徒が何を学ぶのかを明確に示した。
- 5) 基礎力診断テストを年2回（1・2年）年1回（3年）実施し、結果分析会の結果を基に面談を行い、生徒に学習計画の作成を促した。
- 6) 1年生の1学期前半に、国語・数学・英語で中学校までの学習内容の学び直しを行い、基礎学力を向上させる。
- 7) 学年ごとの教科担任連絡会を年2回実施し、教科担当者と担任が連携して個に応じたきめ細かい丁寧な指導を行う。
- 8) 大学生等の外部人材を活用し、放課後勉強会を実施し学力向上、レポートの記入方法等について学習を進めた。
- 9) 2学年時プレ課題研究と3学年時課題研究の発表会を目指して、生徒が自ら調べ、考え、適切に発表・報告する学習活動を充実させた。
- 10) 主な検定合格・資格取得状況は、学年で取り組んだ成果が出ていた。計算技術検定・情報技術検定・ワープロ検定を全員に受検させた。  
第二種電気工事士合格者数28名、計算技術検定3級合格者数106名、基礎製図検定合格者数12名等
- 11) 教科「人間と社会」では足立区と連携し、足立区立小学校における放課後子ども教室、足立区教育委員会主催あだち子どもものづくりフェスタ等は、コロナ感染予防の観点から、次年度以降以降の実施となる。
- 12) 各教科で環境に関する教材を取り入れ、地球環境の科学的理解を深め、環境保全への意識向上に努める。
- 13) アクティブラーニングによる授業研究を若手教員研修へのOJTを中心に実施し、全教科での波及を目指した。

## ② 進路指導に関して

- 1) 「進路の手引き」及び「年間指導計画表」に基づき、系統的なキャリア教育を目指した。コロナ禍の中で、進路ガイダンスを第3学年にてクラスごとに実施した。
- 2) 2学年全員3日間のインターンシップ、1学年企業見学の実施は、コロナ感染予防の観点から、次年度以降の実施となる。
- 4) 学校斡旋就職内定率は、100%（前年度100%）と、厳しい雇用状況の中、学校斡旋就職希望者全員の内定を得ることができた。大学・専門学校の進学希望達成率は、100%（前年度100%）と前年度を上回った。
- 5) 足立区産業経済部就労支援課と連携し、ハローワーク足立と連携した就職支援を行った。

### ③ 生活指導

- 1) 生徒指導部・学年を中心に、毎朝の校門指導や集会を通して、授業を受ける態度、基本的な生活習慣、挨拶励行、身だしなみ、ルール・マナーを守る指導を徹底した。  
遅刻指導対象者は前年度と同様の高い人数となったが、2学年は学年としての指導方法を工夫し、昨年平均より、減少した。
- 2) コロナ禍の影響により、生徒会の校外での活動が制限される中、交通安全週間への参加等、実施してきた。
- 3) スクールカウンセラーによる全体会形式の研修会はコロナ禍により開催しなかった。定期的な学年の担当者を通じた、対応事案行う際に指導助言をその都度受け、関係教員との共有が図れた。情報の共有化を図った。
- 4) 全体の講話の際には、自転車の交通ルール、自転車安全利用五則の遵守など、交通安全指導を織り込んで徹底した。

### ③ 特別活動、部活動

- 1) コロナ禍により、年度当初の第1学年生徒への部活動見学会が実施できず、当初の部活動加入率は減少傾向にあった。(部活動介入率34%)、次年度は、改善し加入率を向上させる。
- 2) 出版委員会の活動により生徒会誌「あゆみ」を発刊した。
- 3) コロナ感染予防を考慮し、生徒会活動、委員会活動、HR活動において、環境保全の活動に取り組み、推進してきた。

### ④ 健康づくり

- 1) コロナ感染予防を徹底し、体力テストを実施し測定を進めてきた。
- 2) 安全教育プログラム・学校保健計画に基づき、薬物乱用防止や生活習慣病などのコロナ感染予防の観点から、講演会を開催せず、資料に基づき指導に当たり、生徒の健康づくりに努めた。
- 3) スクールカウンセラーを効果的に活用し、いじめ事案対応は、的確適切な対応ができてきた。
- 4) 清掃美化委員会を活用し、校内美化に取り組む。保健厚生部を中心に全教員でコロナ感染対策に取り組む。

### ⑥ 募集・広報活動

#### 1) 生徒募集対策

以下の方策を実施することにより、応募倍率は推薦に基づく選抜では、昨年度と同様に応募段階での定員割れをした。

- ・「夏休み工作スタジオ」は、コロナ禍により動画を作成し、小学生への公開を行った。
- ・PR対象を足立区周辺から東京23区に広げ、学校案内の送付や本校の育てる生徒像を明確に伝える中学校コロナ感染予防対策を徹底し学校説明会を行った結果、足立区以外の中学校からの応募が続いている。
- ・中学校教員、私塾、中学校教員対象の技術研修会はコロナ禍により実施できなかった。
- ・本校の特色、生徒の頑張り、実績が外部の方に分かるように、ホームページや校門横の掲示板でPR活動を行なう。特に夏休み以降、画面をリニューアルし、携帯電話でも見られるようにした。

#### 2) 地域交流

- ・工業高校の特色を生かした足立区の学校紹介へ動画等で参加した。地域連携を推進し、足立区教育委員会との連携を進めた。
- ・コロナ禍により、伊興中学校、西新井第二小学校の連携・コロナ禍であるが工夫し交流を引き続き充実させてきた。
- ・設備拠点校実習は、準備を行ったが、コロナ禍により実施が次年度以降となった。また、工業高校PR展に参加し、都民への広報活動を行った。
- ・警視庁西新井警察署の依頼により平成22年度に発足した都立高校ボランティアは、コロナ禍により次年

度以降の開催となった。

#### ⑦ 学校経営組織体制

- 1) 「総合技術科運営委員会」の有機的な活動を通じて、総合技術科の運営が組織的に継続・系統立って進めてきた。
- 2) 教科「デザイン技術」及び教科「人間と社会」について組織的に内容を検討し、運営した。教科「デザイン技術」、家庭科の履修学年の変更のため、次年度実施する。
- 3) 個人情報セキュリティに対する管理を適正におこない、個人情報事故防止に努めた。また、研修を実施し、注意喚起をした。
- 4) 新学習指導要領に基づく教育課程の移行に伴い、円滑な教育活動が図れるよう検証、改善をすすめた。
- 5) 企画調整会議を毎週行い、組織間の調整事項を把握し実施した。
- 6) 担当者や目標を明確にした組織的、計画的なOJTを実施し、若手教員を育成した。
- 7) 経営企画室担当が、予算関連業務、予算執行状況等の現状及び課題を企画調整会議に4半期ごと報告した。
- 8) 体罰根絶に向けて、体罰ガイドラインを基に研修を実施し、共通認識を深めた。

#### ⑤ その他

- 1) 生徒による防災活動支援隊の組織化と地域への貢献、全生徒へ防災・防犯意識の啓発と対応力を身につける指導した結果をコロナ禍の状況を踏まえ、次年度以降、活動を再開する。
- 2) 生読書週間の活用や教科指導との連携により、読書の習慣を高める工夫を行った。
- 3) 「ライフワークバランスを推進し、職員が仕事、家庭、休養それぞれに心身ともに健康な生活を送れる環境整備に努めた。
- 4) 家庭科の2年生履修へ向けて、教育課程の見直しと導入を円滑に次年度に実施する。
- 5) 校外向けスローガンと校内スローガンを決定して、玄関への掲示を行い、本校生徒への啓発と中学生への広報活動の活性化を図った。
- 6) 2022年より実施の高等学校学習指導要領のよる教育課程の確定に向け、校内調整を行い、円滑な移行を目指した。

## 2 学校評価アンケート分析

### アンケート方法

- ・保護者、生徒、教職員を同じ項目でのアンケートとした。
- ・保護者へのアンケートは、現在在校生保護者を対象に保護者会や担任等より依頼した。
- ・生徒、教職員へのアンケートは、全生徒・全教職員を対象とした。
- ・回答率は、生徒ほぼ100%、教職員の回答率は、56.2% 保護者37.2%(昨年27%)

#### ①学校運営関係

教育施設面において、生徒(93%)・保護者(94%)・教職員(87%)と3者が肯定的な回答をしている。

昨年度【生徒(79%)・保護者(64%)・教職員(85%)】との比較では、生徒・保護者とも増加している。特に保護者の肯定する回答が大きく増加している。また、学校行事については、生徒(57%)・保護者(74%)・教職員(68%)と3者が肯定的回答を得ている。昨年度【生徒(64%)・保護者(74%)・教職員(64%)】との比較では、保護者・教職員の肯定する回答が大きな変化はない。しかし、生徒の肯定的な回答は減少している。新型コロナウイルス感染症対策により、「体育祭」「文化祭」「入学式」と学校行事が中止になったことが大きな要因と考えられる。

#### ②学習指導

学習内容の理解度について肯定的な回答は、生徒(77%)・保護者(75%)・教職員(62%)と 昨年度と比較すると肯定的な回答【生徒(65%)・保護者(60%)・教職員(64%)】は、今年度の生徒及び保護者が肯定的な意見が増加している教職

員の回答では肯定的な回答が大きな変化はなく、生徒及び保護者と異なる結果となった。

### ③特別活動

部活動については、生徒(43%)・保護者(53%)・教職員(39%)と昨年度【生徒(50%)・保護者(62%)・教職員(33%)】と全体的に減少傾向となった。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、例年4月当初に行われている「部活体験週間「部活動紹介」が中止になったことが要因と考えられる。

### ④生活指導

頭髪・服装等の遵守では、生徒(73%)・保護者(53%)・教職員(84%)の肯定的な回答結果となった。昨年度の結果は、生徒(58%)・保護者(74%)・教職員(61%)と比較すると教職員の肯定的な回答が大きく増加し、3年連続増加傾向を示している。生徒及び教職員と保護者の肯定的な回答に差があり、保護者との肯定的な回答に大きな差が観られる。基本的な生活習慣については、生徒(64%)・保護者(76%)・教職員(36%)の肯定的な回答結果となったが、昨年度【生徒(63%)・保護者(73%)・教職員(29%)】では、比較すると大きな変化はなく。保護者と教職員は、肯定的な回答が若干増加傾向に観られる結果となった。生徒及び保護者と教職員の差は、足立工業高校を卒業後は8割の生徒が社会人として活躍する人材になれるように指導する気持ちの表れと推測する。

### ⑤進路指導

資格指導は、生徒(71%)・保護者(51%)・教職員(58%)と昨年度【生徒(62%)・保護者(74%)・教職員(70%)】の肯定的な回答が保護者及び教職員は、大きく減少傾向となっている。

進路意識の肯定的な回答は、生徒(92%)・保護者(73%)、教職員(53%)と昨年度【生徒(62%)・保護者(67%)・教職員(48%)】との比較では、生徒の肯定的な回答が大きく増加し、保護者においても増加傾向が観られる。

### ⑥健康・安全

美化活動については、肯定的な回答が生徒(53%)・保護者(77%)・教職員(92%)と昨年度【生徒(72%)・保護者(67%)・教職員(46%)】の肯定的な回答と比較では、保護者と教職員に大きく増加が観られる。

防火・防災・防犯については、生徒(82%)・保護者(79%)・教職員(44%)の肯定的な回答が観られる。昨年度【生徒(64%)・保護者(72%)・教職員(66%)】と比較すると生徒及び保護者の肯定的な回答が増加し、教職員の肯定的な回答が大きく減少した。生徒と教職員では、対照的な結果となった。

危機管理の対応として、新型コロナウイルス感染症対策のための「緊急事態宣言」等の対応について、緊急時における対応の迅速な連絡や教育活動の確保が反映された結果と思われる。

## 3 次年度以降の課題と対応策

### ①学習指導

- ・ 生徒の学力向上のため、教科横断的な視点に立ち、国語、地歴・公民、数学、理科、英語を中心に生徒の基礎的な学力の向上を目指す。とくに、数学、理科、工業で連携して、基礎的な計算能力を生徒に付けさせるように取り組む。
- ・ アクティブラーニングの導入を通し、授業改善の効果が具体的に現れるようにさらに研究授業を充実させる。
- ・ 新教育課程の実施に向けた準備、授業計画等を円滑に行う。生徒像である産業界や関係機関から信頼され、ものづくりをとおして社会に貢献していく人材を育てる。
- ・ 生徒の資格取得のため、各教科・教員がより効果的に取り組む。

### ②進路指導

- ・ 生徒の職業観育成のため、進路ガイダンス、進路講話を今後も継続させる。
- ・ 生徒の職業観育成のため、協力事業所との連携を強化して技能習得型インターンシップを継続するほか、足立区産業経済部や足立区内の事業所との連携を強化してインターンシップに組織的に取り組む。また、大学進学希望者に大学で学ぶ意義を理解させるために連携大学の事業を活用した研修室インターンシップを継続する。生徒の職業観・進路意識を養うことを目的とし、第2学年生徒全員が上記いずれかのインターンシップ

を行う。

- ・ 生徒の就職希望を実現するため、厳しい雇用情勢の中、進路決定率100%を目指して進路指導部を中心にハローワーク足立及び足立区産業経済部と連携して組織的に取り組む。
- ・ 1年生対象の区内企業見学会を継続して実施する。

### ③ 生徒指導

- ・ 生徒の基本的な生活習慣改善のため、引き続き、「指導統一基準」をもとに、全教職員が一致協力して取り組む。
- ・ 自律・自発的な生徒意識を涵養させるため、教育活動を通じて、実践力を身につけさせる。

### ④ 特別活動・部活動

- ・ 異年齢集団による自主的・自発的な活動を通して生涯にわたり運動や文化に親しむ能力や態度を養うため、生徒の部活動加入率の増加に努めるとともに、部活動の充実を図り、多くの生徒に工夫と成果が判るように積極的に対外試合、コンクールなどに挑戦させる。

### ⑤ 環境美化・保健衛生

- ・ より良い学習環境を確保するため、学校内外の環境美化に対する意識を高め、実践力を養う。
- ・ 生徒の体力向上のため、引き続き健康や食育指導など生徒の生活改善の啓発活動を充実させる。

### ⑥ 募集・広報活動

[生徒募集対策]

- ・ 中高連携授業などは工業高校を理解する上で大切であり、引き続き実施し充実させる。
- ・ 不本意入学が中途退学につながるため、本校の目的・姿勢を明確にし、本校を第1希望とする生徒を確保し、中途退学者を減少させる。
- ・ 本校の教育活動を地域から理解してもらうために、ホームページを更に改善・更新していく。さらに中学校訪問、塾訪問などを通じて、広報に努める。

[地域交流]

- ・ 地域に根ざし、地域のものづくり教育の発信源として期待され、信頼されるように、足立区諸機関、企業や関係団体などとの交流・連携を深め、充実、進展させていく。  
足立区産業経済部と連携し、足立区の企業経営者等の学校見学を受け入れる。  
また、足立区地域のちから推進部と連携し、受動喫煙防止標語コンクールに参加するなど、健康推進活動に協力する。
- ・ 設備拠点校である本校の設備・人材を有効活用する。小中高にPRし、児童・生徒・教員の施設見学・体験及び講習会を実施する。
- ・ 地域に根ざし、地域のものづくりの裾野を拓げるため、小中学生を対象に「夏休み工作スタジオ」を実施する。

### ⑦ 防災教育の推進

- ・ 毎年度、繰り返し啓発・指導を重ね、学校として実践力を高め、「持続可能な社会」に貢献する発展的な教育実践を行う。

### ⑧ 学校経営組織

- ・ 教育活動を効果的に行えるように、各分掌・委員会が連携して有機的に機能するように調整する。  
個人情報セキュリティに対する管理の徹底。

### ⑨ その他

- ・ コロナ感染予防対策を徹底し、新しい生活に基づいた学校運営を円滑に行う。

以 上